

## 令和7年度 第2回 新潟支部評議会 議事概要

開催日時	令和7年10月21日(火) 10:00～11:30
会場	協会けんぽ新潟支部 支部会議室
出席評議員	渡邊評議員(議長)、秋葉評議員、金子評議員、加茂評議員、河野評議員、竹津評議員、近田評議員、村木評議員、森澤評議員〔五十音順〕
議題	<p>1. 令和8年度保険料率について</p> <p>2. 新潟支部の健康課題を踏まえた今後の重点取組について(データヘルス計画)</p>
議事概要	<p>事務局より各議題について説明を行った後、各評議員よりご意見をいただいた。(議題2説明後は、支部職員が出演したテレビ放送とCM2本(健康経営、特定保健指導)を視聴した。)</p> <p>ご意見等は次のとおり。</p> <p><b>議題1. 令和8年度保険料率について</b></p> <p>【学識経験者】 過去10年間の賃金上昇率をベースにした今後10年の見通しは無理があるのではないかと。過去5年と今後5年程度で試算の方がより確度の高い議論ができるのではないかと。</p> <p>【事務局】 評議員の皆様方から中長期的視点でご意見いただくために、今後10年間のごく荒い試算でお示ししている。</p> <p>【事業主代表】 昨今の物価上昇が3%を超え、日銀の物価目標も2%である中、物価上昇を上回る賃金上昇と政府が発言しており、標準報酬月額伸び率として過去10年のデフレ期間が含まれている数値を使用するのは違和感がある。</p> <p>説明を聞いている限りにおいて、保険料率はどの程度が妥当なのかを判断するのは難しいと感じた。このままでは制度の運営が今後厳しくなるということの説明と理解した。</p> <p>ただ、社会保障の負担の低減という話が出ている中で、保険料率が上がると従業員、事業主の保険料負担が増えるため、令和8年度は10%を維持していただきたい。</p>

【被保険者代表】	<p>資料「生損保等における準備金について」より、この事実を踏まえて協会けんぽとして今後どうしたいか、次に何か目指すものがあるかをお聞かせいただきたい。</p> <p>また、保険料率が比較的高い健康保険組合は、どのような背景があり保険料率を高くせざるを得なかったのかを把握できれば、協会けんぽの今後の保険料率にかかる議論の際に少しでも参考になるのではないかと。</p>
【事務局】	<p>協会けんぽにおいて想定されるリスクについて試算したもので、他の生命保険会社や損害保険会社の準備金制度の基本的な考え方に当てはめ、参考としてご提示した。</p>
【事業主代表】	<p>今後の政治情勢等により、国が政策を変更した時点でスピード感を持って対策出来るような体制が必要と思われる。国に対してさまざまな形で提案していくのも良い。</p>
【被保険者代表】	<p>資料「単年度収支差と準備金残高等の推移」の経過を鑑みると、保険料率 10% が限界と考える。</p>
【事業主代表】	<p>今後、労働参加が進み保険料収入の増加に繋がると考える。保険料率 10% を超えないという方向性は妥当である。</p>
<p><b>議題 2. 新潟支部の健康課題を踏まえた今後の重点取組について（データヘルス計画）</b></p>	
【学識経験者】	<p>特定保健指導 CM は強く印象に残った。また、高速道路サービスエリアでの血圧に関するデジタルサイネージ広告は、分かりやすく表現されており良かった。LINE でも血圧に関する記事が掲載されており意識して内容を確認している。</p>
【学識経験者】	<p>特定保健指導 CM は昔の少女漫画のようで響く方には響くと思う。今後は、新潟県民の特徴を踏まえた血圧に特化した広報も実施すると良い。現在、どこの家庭でも体重計は置いてあるが、肥満対策に対するアピールが浸透した結果だと思う。血圧計も、職場での設置に加えて家庭にも設置することが重要である旨の広報なども必要である。また、血圧測定の重要性は、自分の健康に一番関心のある健康診断時に健診機関の方から伝えてもらうと良いのでは</p>

	ないか。
【 事 務 局 】	<p>特定保健指導を受けることは高血圧対策にも繋がるが、特定保健指導を認識していない方が非常に多い。健診受診を呼びかける CM は多いが、今回は特定保健指導に特化して、対象となる 40 歳以上の年代に響く CM を作成した。血圧測定の重要性は、医師からの説明が効果的で、収縮期血圧が 130mmHg を超えた方には、問診時に血圧チラシを配付する準備を進めている。実施内容等については今後の評議会でも報告させていただきたい。</p>
【 事 業 主 代 表 】	<p>血圧にフォーカスした取組みは非常に大切だと思う。血圧は高くても自覚症状がない。意識的に血圧値を把握することは非常に重要である。新潟県は、血圧リスク保有者の割合が低い一方で、脳血管疾患の死亡率が高く心疾患の死亡率が低い。その要因を教えていただきたい。</p>
【 事 務 局 】	<p>死亡率との関係性については、現時点でご説明できるものがない。プロジェクトの先生方とも相談しながら分析していきたい。仮にその要因が医療提供体制にあるとすれば、地域医療構想調整会議などの場や医師会などにも発信していく必要がある。</p>
【 被 保 険 者 代 表 】	<p>弊社は血圧計を設置して今年で 3 年目になる。設置して 2 年目までは従業員に血圧測定を促すのみであったが、健康診断の結果では高血圧リスク保有者は減少した。数値を確認することで各自が日常的に健康管理を意識するようになったと考えられる。これまで 3 名が血圧測定をきっかけに高血圧を自覚し、投薬治療を開始した。しかし、3 年目は健康診断時の血圧値も設置前に戻ってしまった。血圧測定は定着したものの、その後の具体的な取組みに繋がっていないことが課題である。家庭でも血圧計を設置して家族も一緒に血圧を測定する習慣付けや、協会けんぽからも積極的に血圧を下げるための取組み事例やアドバイスがあると良い。</p> <p>また、健康経営の一環として、週に 1 回無料で特定保健飲料水を飲めるよう自動販売機を設置した。高血圧やコレステロール値の変化を観察していく予定である。</p>
【 事 務 局 】	<p>「血圧測定することで血圧が下がる」ということが、データヘルス計画の目的でもあった。先行して取組んでいただきありがたい。測定が定着化した後</p>

<p>【事業主代表】</p> <p>【事務局】</p>	<p>の取組み事例については、事業所ヘインタビューを行い、広報紙等で広めていきたい。</p> <p>アドバイスについては、協会けんぽの保健師や管理栄養士が日々事業所に訪問し、健康づくりのサポートをしている。血圧を下げるための実例があれば展開していきたい。</p> <p>近年、熱中症や高血圧に関連した突然死が多くなっている中で、血圧測定に関する取組みが開始されたことは大変素晴らしい。今後、メディアとコラボしながら健康経営宣言事業所等に展開することで血圧測定は広まっていくと思う。にいがたケンジュプロジェクトやウォーキングイベントなど、加入者は身近なところでの活動を期待しているので引き続きお願いしたい。</p> <p>「にいがた STOP 高血圧プロジェクト」の血圧測定習慣化キャンペーンの一環として、10/26 にアルビレックス新潟のホームゲームで血圧測定ブースを出展する。また、10/31 には新潟県知事に「にいがた STOP 高血圧プロジェクト」メンバーで表敬訪問し、高血圧対策のプロジェクト立ち上げの説明と、県知事にも血圧を測っていただき、血圧を測ることの重要性を伝える。ドライバーの突然死、特に健康起因事故は、事業所の経営に直結する。運輸局やトラック協会とも連携を行い、社内への血圧計設置や血圧測定の習慣化を推進している。また、LINE などを活用し、運転休憩中に個人でできる血圧を下げるための運動等も発信していきたい。</p>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回評議会は、令和8年1月開催予定。</li> <li>・本部よりオブザーバーとして2名出席。</li> </ul>